

まちの家計簿みてみよう

予算総額 ▶ 84億8,142万1千円

		去年と比べると
一般会計	68億 327万3千円	-5.7% 減少
国民健康保険特別会計	9億4,509万6千円	-35.4% 減少
後期高齢者医療特別会計	7,300万5千円	-0.6% 増加
下水道事業特別会計	2億7,251万5千円	-5.3% 増加
水道事業会計	3億8,753万2千円	23.0% 減少
合計	84億8,142万1千円	-9.3% 減少



去年と比べると何が変わったのかな？

一般会計の増減理由
(目的別の増減額が大きいもの上位3位)

第1位

土木費 6億222万2千円の減少

久米島縦断線整備事業・大原下線整備事業・多目的公園整備事業など大型事業の完了に伴い土木費が対前年度比で約56.1%減少しました。

第2位

総務費 2億5,206万5千円の増加

前年度補正予算にて予算措置を行った沖縄離島活性化推進事業の年度当初からの計上により対前年度比で約18.3%増加しました。

第3位

農林水産費 1億7,457万3千円の増加

水産物供給基盤機能保全事業・農業基盤整備促進事業の事業量の増加により対前年度比で約21.6%減少しました。

その他、前年度に大型水槽車の整備等を行ったことにより消防費が対前年度比で6,036万1千円(18.3%)、国民健康保険特別会計への繰出金の減等により民生費が対前年度比3,163万1千円(2.2%)減少しております。



予算編成のポイント

平成30年度当初予算は、歳入では自主財源の柱である町税の収納見込み額が年々増加しているものの収入総額に占める割合が依然として低い状況(9.7%)であり、地方交付税や国庫・県支出金等の特定財源に大きく依存した構造となっています。その中でも、地方交付税は合併算定替えを終え一本算定となることから一定程度の減額を見込んでいる。そのため、予算編成において更に厳しい状況となりました。

一方、歳出では義務的経費である人件費、公債費及び扶助費の割合が高く、弾力性に乏しい財政構造となっており、特に今後は公共施設の老朽化による維持補修等及び高齢化の進展に伴う社会保障費の自然増が予想されます。これらの状況を打開するため、第2次久米島町総合計画が掲げられた人口増加や「しごと」の創造をはじめとする各施策を積極的に展開するとともに、教育、福祉、医療分野など、町民の生活に必要な不可欠な行政サービスの維持と住民福祉の向上に取り組めるよう予算を編成しました。